

コ ロ ナ 雑 感

2020/5/4 三浦 幸廣

雑感(その1)

ここだけの話、最近「フラフラと年寄りが出歩くな」という空気を感じる。昨日までは「小人閑居して不善をなす」などといっていたクセに。4月7日の安倍会見だ。あそこでの「外出自粛」が始まりだ。

そう言われても何の用事も無い。だからテレビを見るしかない。それで気が付いた。テレビ生活も結構、充実している。『あの試合をもう一度:レッズ初勝利』も良かった。『都はるみ・熱唱ふたたび～名曲はこうして誕生した』も良かった。両方ともジーンときた。

しかし最高は『70才、初めて産みましたセブンティウイザン』だろう。夫65歳、妻70歳。合計135歳の平凡な夫婦。その妻がトイレでゲーゲーしている姿を見た夫が「脳溢血じゃないのか」と真っ青になるが、振り返った妻が「ツフリよ。わたし、妊娠しました」と告白する。このシーンからドラマは始まる。一瞬で惹きこまれた。

目茶苦茶ファンタジーなのだけれども新しい生命が授かった喜び、諦めていた赤ちゃんに戸惑いながらも家族の喜びを再認識する高齢夫婦。その気持の高まりを説明するかのように挿入される夫婦それぞれの人生と青春。実に上手い作りだ。最高だったのは学生運動での出会い。妻の人生を大きく塗り替えた経験だった。もうナンもイエネー。反省して寝る。

雑感(その2)

ここだけの話、世の中ってこんなに簡単にかつ激しく変わるものなのかと驚いている。学校の新学期開始を4月から9月に変える議論のことだ。都知事の小池さんが「今こそ変革の時。突然の変革だけに混乱も起きるかも知れない。しかし既に混乱状態にある。混乱状態こそ変革の時だ」と堂々と開き直り、「今こそ国際スタンダードの9月新学期システムに変えるべし」と発言していた。格好良かった。今までは単に「疲れる女」とばかり思っていた彼女だが今回だけは見直した。格好良い。

解説によると欧米先進国のほとんどは9月始まりだという。あの中国だって9月だった。春始めは韓国の3月と日本の4月くらいなもの。アジアは総じて4月だと思っていたが大きな間違いだった。間違いの原因は高校時代の地理の先生にある。つまり「米づくり」は春から秋の作業、「麦づくり」は秋から春の作業。だから「米食の国では世の中全てが春始め、麦食の国では秋始めなのだ」とのご高説を賜った。だが調べてみると日本も明治の頃は9月始めが多数派だったらしいから、いい加減なご高説だった。

コロナで学校開始がここまでズレてしまったのだからこの際、思い切って9月始めに戻すことは、それほど突飛なことでもないだろう。これまでは日本が4月始めであるために海外留学にしても外国企業への就職にしても大きなズレが出ていた。もの凄い速さでグローバル化が進む現代。この致命的なズレをこれ以上広げないためにも今が絶好のチャンスなのだ。

コロナ、コロナと嘆くよりも「災い転じて福となす」と頭を切り替えて、早急に「9月始めのための議論」を進めて欲しい。「ピンチはチャンス」という言葉もあるではないか。反省して寝る。

雑感(その3)

ここだけの話、重苦しい雰囲気但至少でも吹き飛ばそうとベランダで大声で歌を歌ってみた。が、あんまりスッキリとはしなかった。

♪ ゼロのない奴あ 俺んどこへ来い 俺もないけど 心配すんな

見ろよ 青い空 白い雲 そのうちなんとか なるだろう

しかし「安心届ける10万円、一律給付10万円」、これはスッキリした。「生活の急激な変化に政治が機敏に反応すべきだ」とする政策だと政府・与党が語っていた。本来、政治とはこういうものだろう。それに比べると「世帯主の収入減に応じて30万円」というのはどうしょうもなくお粗末だ。救いようの無い官僚的発想だ。このくだらない政府案をブチ壊し「一人残らず10万円」という大方針転換。これは潔ぎ良かった。今必要なのは赤ちゃんからお年寄りまで全ての国民が心から明るさを取り戻す政策なのだ。

ただし忘れてならないのは、この10万円、決して貯金やタンス預金に回してはならず、張り切って使わなければならない、という事だ。コロナが収まり「さあ経済・社会の復興だ」となった時に素早く日本経済が再起動できるように今、使いまくることが大切なのだ。ハッキリ言えばこの10万円、回りまわってやがては我々の年金財源になるのだから。反省して寝る。

雑感(その4)

ここだけの話、ラジオでは「ジシユク警察という言葉が広がっている」と言っていた。なんの事はない。いろいろな場所で他人を監視して「ジシユク認識の低い人、ジシユク行動がみられない人」を発見し警告する行為らしい。問題はその警告の仕方で、家のドアーに無記名の貼紙をするなど、どこか陰湿でイジメを連想させるものだ。

それを聞いて思い出したのが近所のスーパーでの出来事だ。レジでお金を払った後、商品を袋に詰めこもうとして出口近くの整理台に近づいた時、そこにいたお婆さんが訝しげに私を睨み、ブツブツ言いながら別の台に移動した。たったそれだけの事なのだがイヤな気分だった。

だが店を出てから気が付いた。あの時私はマスクを家に忘れて来たため、着けていなかったのだ。つまりマスクを着けていなかった私は「ジシユク認識の低い人」、睨みつけながら離れて行ったお婆さんは「無言の警告を発したジシユク警察」だったという訳である。

ガイドラインが出て以降、感染防止のためのハードルが急速に上がっていて、それが人々をさらに縛り上げイライラ指数を高めているのだろうか。

こんな毎日だが、せめて自分の気持のコントロールだけは失わないようにしたい。反省して寝る。

雑感(その5)

ここだけの話、私だってオリンピック・パラリンピックの1年間延長で影響を受けた人間の一人なのだ。もちろん選手でもなければ大会役員でもない。単なる都市ボランティアだが男女のゴルフ競技で出番が決まっていた。7月30日から8月7日までの期間、朝の5時30分から10時30分まで稲荷山公園駅に配置され、そこで観客・大会関係者の出迎や移動のお助けをする事になっていた。

そのための研修も受けた。その一つとして「普通救命講習」も修了した。帰宅後家内に「講習を受けたから、例え君が倒れても俺は救助できる。しかし俺が倒れたら誰が救助してくれるのか」と自信満々に話したところ「その時はアキラメて」とアッサリかわされた。

新型コロナで出番が延期されたのは残念だが、オリ・パラは中止ではなく延期なのだから来年は必ず来る(はずだ)。その時こそ俺の出番と気を引き締めている。一刻も早くコロナ完全殲滅、経済復興それ行けドンドンというムードになって欲しい。

その時こそ「全て俺に任せろ。復興なら自信がある」と叫びたい。なにしろこちらは戦後生まれ。終戦直後の厳しい時代も生き延びたし、その後迎えた高度成長時代も真ただ中で生きて来た。戦後復興ならぬ「災禍復興の日」が一日も早く到来することを願ってやまない。反省して寝る。